

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成する。				総合評価		
令和2年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標				
キャリアデザイン科として、全ての教育活動に人生100年時代の視点を取り入れるとともに、地域を重視したキャリア教育を進めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の中。十分な活動を行うことが出来なかったが、教育活動を工夫し、2年生の地域課題解決型研究の持ち方と二階堂フェスタの内容については、実績をのこすことが出来た。進路保障については、就職・進学ともに「ミスマッチを防いだ進路選択」を目標に一定の成果を見せている。進路先が決定した生徒にも就職後、入学後をも見据えた指導を行っており、今後の離職者、中途退学者の防止への成果を期待している。		(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進		①DCSプロジェクト※を通して、実社会とつながった「深い学びに向かう力」を育成する。(※DCSプロジェクト：実社会とつながった深い学びに向かう力の育成プロジェクト) ②Brush up Time (BUT)※を軸に基礎学力を充実させ、積極的な資格、検定の取得をすすめる。(※Brush up Time (BUT)：朝の時間を利用した振り返り学習) ③「産業社会と人間」、「社会人基礎力」※を通して、キャリアプランニング能力を育成する。(※社会人基礎力：総合的な探究の時間) ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性をもった生徒を育成する。				
		(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成		①時間とルールを守り、けじめある生活態度を育てる。 ②爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を通して、社会性、多様性を尊重する心を育む。				
		(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営		①学年、分掌、事務室が情報を共有し、チームとしての教育活動の推進を図る。 ②新学習指導要領の実施に向けた、新しい教育課程を創造する。 ③ICTを活用し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを推進する。 ④地域や保護者との連携・協働により、コミュニティスクールの取組を推進する。 ⑤教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。				
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)		改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTや普段の授業の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「この授業を受けて、力がついたと思う」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受験により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受験数400名以上。		C	・「この授業を受けて、力がついたと思う」のGPAは3.6で、概ね達成できた。BUTの学習内容の定着については、まだまだ不十分である。 ・基礎学力を充実させ、積極的な資格・検定の取得をすすめた。各種検定受験者は222名であった。		主体的に学ぶ意識を育てる。セミナー、面談等を通して各種検定に対する生徒の意識向上の取り組みを進める。 ICTを活用した授業を推進していく。BUTの内容は、新学習指導要領を見据えた見直しが必要であるとともに、毎日の積み重ねが学力の定着につながる学習方法を考えていく。	コロナ禍にあり、授業時間確保に苦心しつつ、放課後の補習やICT機器を使った授業展開を進めるなどの取組は評価できる。観点別評価導入した成果を次年度に生かして頂きたい。
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「この授業は、興味を持てるように工夫されている」のGPA3.0以上。		A	・ICT機器を活用した授業が増えている。9月には本校にあったオンライン授業を実施した。 ・「この授業は、興味を持てるように工夫されている」のGPAは3.5で、概ね達成できた。			
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守り全体の中の一人である意識を持たせる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を継続する。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。		C	・毎朝の登校指導により、明るく挨拶が出来る生徒が増えた。言葉遣いについては、継続指導が必要である。 ・指導件数は昨年度比約10%増加してしまった。		・規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立については、まだまだ粘り強く指導をする必要がある。 ・更に家庭との連携を密にし協働による指導を行い進路実現に向けて取り組む。	登校指導における挨拶運動の成果はに表れている。しかしながら基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上においては、より一層、家庭との連携による指導につとめて頂きたい。
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切に指導を継続し、けじめある行動を心がける。さらに遅刻指導を徹底し、遅刻数昨年度比10%減をめざす。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学校全体で統一した指導をする。		C	・遅刻数はコロナ禍であったことを考慮しても、非常に多い状況が続いている。遅刻指導を徹底する必要がある。 ・服装・頭髪等の身だしなみについては、全体で統一した点検回数を増やし指導することも検討しなければならない。			
	生徒理解と家庭との連携	・中学校訪問や生活支援カードで得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻では家庭との連絡を徹底して、家庭との協働による指導を行い、進路実現に役立つよう社会人基礎力を育成する。		B	・生活支援カードや面談期間を通して生徒理解が進み、細部にわたって配慮することが出来た。 ・常に家庭連絡を取って生徒の状況把握に努めた。			
情操指導	読書週間の定着	・BUTの読書時間に役立てるお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(図書館イベントやお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)1年生は図書館オリエンテーションを各HRで行う。		A	ソーシャルディスタンスを守って、図書館イベントを行い、リーフレットやポスターの作成などを図書委員中心に図書館の活用に向けた活動ができた。		図書委員・文化委員・環境美化委員・生徒会役員が、各自の活動内容を把握し、自主的に出来るようにする。	コロナ禍で教育活動の内容が制限され、学校行事において情操教育を進めにくい環境であったことは推察できる。しかしながら、生徒会や二階堂フェスタ実行委員の主体的で自律した活動は素晴らしい。
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした文化鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。		A	文化鑑賞会に向けて、生徒主体で内容や会場、注意点などを話し合い、2回公演にして安全に取り組むことが出来た。満足度も高かった。			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率90%以上)		A	クリーンキャンペーンは環境美化委員以外にも多くの生徒が参加して実施した。点検率は90%。			
	奉仕精神と勤労観の育成	・二階堂サポーターズクラブの活動を通して、ボランティア活動に積極的に参加する姿勢を育て、社会に役立つとはどういうことかを学ぶ。生徒会はその活動を推進するために協力する体制をつくる。 ・年間を通して各クラス年1回の通学路清掃を実施する。		A B	生徒の主体的、積極的な取組により、地域の方々に自分たちの住んでいる町に二階堂高校があって良かったと思っただけのような活動ができた。 ・感染拡大の時期は実施できなかった。			
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	・感染症対策を徹底しながら、安全な体育行事が開催できるように企画運営をする。 ・心身ともに自己管理を促し、保健室利用を昨年度より10%減を目指す。 ・感染症予防として、消毒液・手洗い用洗剤の補充を確実に実施する。 ・感染症予防の正しい知識を理解させ、適切な行動選択ができるよう指導する。		B	コロナ禍でさまざまなリスクを想定しながら、各分掌・学年と連携を取りつつ、計画し実行に移すことができた。感染予防の観点から、いろいろな対策を講じる中で、生徒に感染症に関しての一定の意識付けをさせることができた。保健室利用に関しては、感染症対策の観点より利用制限をしているので、利用者は少ない。		コロナ禍において生活様式が変化していく中、生徒の心身の変化を見逃さないよう家庭などと連携を密にしながら、将来のための健康の維持向上に繋げていく必要がある。	コロナに対する感染対策は評価できる。感染者の発生においても適切な判断をして頂いた。
	食育の充実	・朝食の欠食率を各学年、10%減らす。 ・食育に関する保健だよりを年間9回以上発行する。		B	保健だよりは年間9回以上発行できたが、朝食の欠食率は、各学年30%ほどで横ばい状態であり、食に関して更なる情報発信を考えていく必要がある。		家庭との連携が大切であると考える。	

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナーへの参加を促す。外部講師を活用し、内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。	B	2年生を対象にサクセスセミナーを年間10回放課後に実施した。必要な情報を生徒に提供し、意識改革に取り組んだ。さらに意識向上を図りたい。	就職については新型コロナウイルスにより先が見えにくい状況にある。職員全体で進路意識の高揚を図る指導を、全教育活動の中で展開していきたい。	進路先での適応能力を高める指導は素晴らしい。さらに下級生時よりキャリアデザインに対する姿勢を育てて頂きたい。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や進学合格者に対して、定期的にセミナーを実施し、該当生徒100%の参加を目標とする。	B	卒業後にスムーズな滑り出しができるように、「法律の話」「卒業生によるビジネススマナー」「メタ認知力を鍛える」等の講座を実施した。当該生徒の参加率は88%であった。さらなる意識改革を迫りたい。		
地域の連携 ・保護者と	学校関係者との連携	・PTA新聞を発行する。総会、研修会、乗車マナー指導等のPTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者5%増)	C	学校行事が中止・縮小になったり、総会・研修会等も中止になることが多く、保護者の参加を促進することは全くなかった。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実を努める。	二階堂フェスタが地域に期待される恒例行事となりつつあるのは素晴らしい。一層地域に根ざし、地域と共に育つ活動をお願いしたい。
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。(回収率90%以上)	B	アンケートの実施が少なく、分析できなかった。		
	開かれた学校づくり	・学校行事に保護者の参加を促進する。(参加者5%増) ・学校ホームページの充実。	B	体育大会が中止になり、二階堂フェスタも縮小した形での実施となり、保護者の参加はご遠慮いただいた。		
防災	安全教育・防災体制の充実	・安全教育を実施し、避難訓練を行い防災教育の充実をはかる。また、定期的に安全点検を行う。	A	密をさけるために避難場所は学年ごとに分け、避難経路の確認等を行うことが出来た。また、安全点検も確実にいった。	引き続き実施機会を確保する。	命を守る防災意識を高めて頂きたい。
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・インクルーシブ教育の推進を図るため、高等養護学校分教室と連携し、人権講演会や人権HRを充実させる。	A	1年生に分教室について理解を深めてもらうため、高等養護学校の先生に説明動画を作成してもらい、全クラスで視聴してもらった。分教室の卒業生の作文などを利用して、人権HRなども行った。また交流委員会を数回行い、人権作文発表会を分教室と合同で行うことが出来た。	ネットモラルについて意識付けするために、他分掌や学年と連携し、人権HRの効果的な実施が出来るように検討する。特別支援が必要な生徒は年々増加し、多様化しているため、今後もスクールカウンセラーや学年、他分掌と連携しながら対応していく。スクールカウンセラーと繋がり、先生方が日頃感じられていることを共有できる場を設定する。	ネットにおける人権問題は、社会全体の問題となっている。しっかりとテラシー教育を進めて頂きたい。特別支援教育の重要性は高まっており、しっかりと取り組んで頂いているが、一層丁寧に進めて頂きたい。
		・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取り組みを行う。	B	1,2年生において、ネットモラルについての人権HRを行った。多くの生徒は、真剣に向き合っているが、SNSにおけるトラブルが未だに後を絶たないのが現状であり、対策が必要である。		
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速かつ組織的に対応する。また每学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。	B	特別な支援を要する生徒にはスクールカウンセラーや担任と連携し、適宜対応できた。スクールカウンセラーを講師とした研修会は年度当初と夏期休業中に1度行った。		
国際教育	国際理解教育の深化	・奈良県外国人教育研究会と連携をとり、生徒の多文化共生社会に対する意識を高める取り組みを行う。	B	奈良県外国人生徒交流会などは多くが中止になり、あまり発信できなかった。また2年生に多文化共生について人権HRを実施し、外国人の人権について考えた。	多文化共生についてより深く考察できる取り組みを行う。	大切な取組であり、生徒が体感できる場の提供をお願いしたい。
研究	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携し、合同の校内研修会を実施する。	B	年度当初に合同研修を行い、また必要に応じて、分教室と要配慮生徒について情報交換を行った。交流委員会担当者を中心に分教室と連携した。	両校生徒の相互理解が深まる取組を増やす。授業と評価の一体化についてさらに各教科の研究授業の取り組みを推進する。	観点別評価の研修を始め、職員間において職務の相互理解と協力体制が構築され、キャリアアップが図られた。
		・令和4年度入学生徒に関わる観点別評価の実施に向け、教科内の研修を実施する。	B	本校にあった観点別評価について、教育課程委員会、職員会議で研修を深めた。また、教科主任を中心に各教科で、令和4年度入学生徒が習得する科目の評価規準を作成した。		
第一学年	基本的な生活習慣・規範意識の確立、進路を見据えた学習	・社会人基礎力の基盤として、身だしなみや挨拶、時間を守る、適切な言葉遣い等への意識を高め基本的な生活習慣を確立させる。日常の声かけ・面談等を通して、生徒・保護者との信頼関係を構築する。	B	生徒の特性を理解し、学力や友人関係・家庭環境など個人を理解するのに時間がかかり、対応の遅れがあった。また、多くの生徒が高校の生活に慣れるのにも時間がかかり、計画していた内容のものが実施できなかった。残念であるが保護者との信頼関係を構築することが非常に困難であった例が複数件あった。学力補充講習の各教科ごとの補習は、意欲のある生徒が参加し、前向きな取組みとなった。	保護者との連携を緊密にとり、生徒一人一人とのコミュニケーションを深め、学力も含めた特性を理解し、進路を見据えた指導が出来るように取り組む。	先生方には、生徒の実情に応じた指導で、1人1人の生徒に丁寧に対応して頂いたと感じる。今後も多様な生徒・保護者に対し、粘り強く取り組み、生徒の社会人基礎力の養成と、卒業後の未来のよりよいキャリアデザインが設計できるよう指導して頂きたい。
		・「産業社会と人間」の授業等を通じて、自己の進路について考える。日々の授業・BUTを大切にし、定期考査前の学力補充講習・進路補習等にも積極的に参加させる。	B			
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・身だしなみや挨拶、適切な言葉遣いを自ら意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(令和2年度第1学年比10%減)	B	今年もなかなか学校全体での行事ができず、全体での行動や意識付けがうまく学習できなかった。そのような中でも修学旅行を実施できたことは良かったと思う。その中で多くの生徒は集団での行動ができた。進路に関する取り組みも各担任の働きかけもあり、各セミナーや生徒会行事に積極的に参加する生徒も増え、学校の中心的存在としての活躍を見せる生徒も増えてきた。	来年度は、各自が進路決定に向けて本格的に取り組むこととなります。基本的な生活習慣をしっかりと維持し目標に向かって全力で取り組めるように基盤を固める必要がある。	
		・授業・BUTを大切に、進学・就職ガイダンスや進路補習等に積極的に参加させる。	B			
第三学年	将来のキャリアデザインを見据えた進路実現	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(令和2年度第2学年比10%減)	B	多くの生徒が卒業後の進路目標を早期に意識し、その実現に向けて各種進学講座や夏休みの就職指導等に積極的に参加するなどの意欲的な取組を行った。また、社会人基礎力の授業や各種セミナー等を通して、コミュニケーション力等の社会人として必須の力を習得させることができた。ただ、新型コロナによる休校等の関係で昨年度との比較は困難であるが、進路決定以降に欠席や遅刻をする者が増加したことが課題である。	各種入試や就職試験に合格することがゴールではなく、合格後も自己を高めていくための継続した取組が必要であることを更に意識させる必要がある。	
		・「自己PR力」や「協働する力」などの社会人基礎力を身に付けさせる。	B			
教職員の働き	勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進	・前向きな姿勢で充実感の得られる業務が実践できる職場環境作りを努める。建設的で活気のある職場とすることにより、効果的かつ効率のよい業務の実現と教職員のストレス軽減を図る。	A	本校の職員に対するストレスチェックの結果は、奈良県立高校の平均を上回っており、より健全な職場環境に近づいている。出勤時刻のチェックにより、職員の時間管理に対する意識は高まり業務の効率化は進んでいる。しかしながら、一部職員の超勤時間については、業務の分担など改善が必要である。	働き方改革に対する職員の意識を一層高めると共に、業務の分担・効率化をさらに進める。またストレスのない職場環境づくりにつとめる。	職員全体のチーム力が向上し、働き方改革は進んでいると感じる。よりよい職場環境を整備して頂きたい。
		・職員個々が日々の退勤時間をを設定し、時間管理を意識した働き方を進める。また、少なくとも週一回の定刻退勤を目指す。	B			
総合	教育活動全体の充実	保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.5以上。	B	本校の教育に一定の理解と支持を得ている。しかしながら、学校と家庭が一層連携し、より充実した教育活動が実践されなければならない。	保護者を巻き込み、家庭と学校が一体となった教育活動につとめる。	保護者と連携し、協力して教育活動を進めて頂きたい。